

■フランス：3回目の建物設置型太陽光入札、平均落札価格は85ユーロ/MWh

ユロ環境移行相は2018年1月8日、100～8,000kWの建物設置型太陽光発電設備を対象とした第3回目の競争入札で選ばれた283プロジェクト(合計15万9,000kW)を発表した。平均落札価格は85ユーロ/MWhで、前回(2017年9月)を9%下回った。うち、容量の大きいグループ(500～8,000kW)の平均落札価格は80.8ユーロ/MWh(前回88.4ユーロ/MWh)であった。落札プロジェクトの40%が自治体または一定以上の個人が参加するプロジェクトであり、割増金加算(3ユーロ/MWh)の特典が受けられる。建物設置型太陽光を対象としたこの競争入札制度は2017年3月にスタートし、毎年3回、2019年までに全部で9回、各15万kWの容量を募集することで合計135万kWを導入することが計画されていた。しかし、昨年12月にパリで開催された「ワン・プラネット・サミット」の際にユロ大臣が太陽光発電を促進する方針を打ち出し、地上設置型の100万kWを含めて現在は年約150万kWの入札募集量を今後は250万kWに引き上げると発表したことを受け、3月9日締め切り予定の第4回目の建物設置型太陽光入札では、募集量が20万kWに引き上げられることになった。